

No. 2406 猿ヶ馬場山

平成 26 年 3 月 21 日 (金) 夜～23 日 (日) 晴れ
参加者：鳴原(L) 佐々木 岡本 右田 (記)

箕面駅で待っていると鳴原さんの X-TRAIL がやってきた。今回は、男 4 人でのテント泊山行だ。箕面駅を 20 時にスタートし、東海北陸道経由で白川郷まで走る。前日の爆弾低気圧の影響で高速道路は白鳥あたりからチェーン規制となっている。スタッドレスタイヤで正解だったと話ながら、高速道を降り、雪道となっている一般道を走り、0 時に白川郷の道の駅に到着。世界遺産に登録されたことで立派なトイレが整備されている。車は数台あるが、テントはなし。早速、トイレ近くにテントを設営し、運転で冴えた脳を静めるため、2 時間ほどビールなど飲みながら歓談し、2 時頃に就寝。



翌朝、6 時に起床し、各自朝食を済ませる。テントを撤収し、X-TRAIL で登山口近くの駐車場まで移動。登山口の神社を抜けるがルートが判りにくい。別方向から来たスキー登山の二人組に合流し、先行のスキーのトレースを発見。関西から来た山スキー客らしい。新雪のため、早速、スノーシューの出番。しばらくは林道に沿って登って行く。



途中から、尾根に取り付き、樹林帯を登る。スノーシューで新雪を踏みしめて歩くが、下の層で滑って非常に歩きにくい。先頭を交代しながら登って行くが、足にじわじわとダメージがきているのがわかる。1472m ピークの手前と思われる地点まで来たところで、岡本さんの足がつる。この時点ですでに 12 時前。猿ヶ馬場山まで標高差 400m はある。14 時までに頂上に着かないと帰りが日没に入ってしまう。ここで猿ヶ馬場山はあきらめて 1622m の帰雲山を目指すことに変更。岡本さんの足の調子が悪いので佐々木さんと二人先に下山することになったため、鳴原さんと帰雲山に向かう。12:24 電波塔のある 1528m ピークに到着。傾斜は緩いが新雪が深く、足が重い。辛抱しながら足を進め、13 時前に帰雲山到着。昼食をとり、13:30 下山開始。トレースが出来ているので快調に下る。途中、二人のスキー組を追い抜き、15:48 に駐車場に到着。車で道の駅に向かっていると、白川郷の集落から観光客に混ざって、岡本さんと佐々木さんが歩いてくる。二人は地酒を飲んで気持ちよさそう。道の駅まで行って、車の中でビールを飲みながら薄暗くなるのを待ってテントを張る。テントの中で鍋を囲んで酒を酌み交わし今日の反省会で多めに盛り上がった。





(五箇山の合掌作り)

翌朝、X-TRAILでイオックス・アローザ・スキー場まで移動。途中、富山の名水を汲み、五箇山の合掌村をパチリ。昨日以上に高気圧に覆われて快晴。ゴンドラで標高350mから一気に760mまで移動。今日は、快適な尾根歩きである。先に939mの奥医王山に向かう。10:40奥医王山に到着。昨日登れなかった猿ヶ馬場山や白山が確認できる。休憩の後、来た道を引き返し、白兀山を目指す。11:36蛇尾山920m

に到着。白兀山は896mとこのピークよりも低いので、ここで終了とすることに皆合意。軽く昼食を済ませ、下山にかかる。帰りはゴンドラがタダということなので、当然ゴンドラで下ることにする。ゲレンデを眺めながらあっという間に到着12:38。



(奥医王山より白山を望む)

スキー場横の温泉に入り、風呂上りに鳴原さんに甘えてビールをグビッ。あーうまい。帰りは北陸道を走り、名神が渋滞しているので、敦賀で降りて、小浜から舞鶴道で帰阪。自宅前まで送ってもらい、21時前に到着。好天に恵まれて非常に楽しい山行でした。猿ヶ馬場山のピークに立てなかったのが少々残念ですが、今度は、テント泊で再挑戦しましょう。

段取りいただき、最初から最後まで運転していただきました鳴原さんありがとうございました。